

# 日本の世論 2023

## 少子化「経済」要因重く

### 本社・埼玉大共同調査

## 政府対策に悲観的

毎日新聞と埼玉大学社会調査センターが10月12日に共同実施した「日本の世論2023」では、少子化の急激な進行によって老後の生活や家族の介護への不安が広がる

現状が浮かび上がった。集中豪雨や大地震などの災害に襲われる不安も高まり、ウクライナやパレスチナで続く戦争が日本も安全ではないという危機感を広げている。物価高への不満も強く、日本社会を覆う不安を拭き去る政治が国民の期待に応えられていないことが、岸田政権への低評価につながっているように思われる。



深刻な少子化の原因は(複数回答)

経済の停滞と非正規雇用の増加によって若い世代が将来の見通しを立てづらくなっている

選択的夫婦別姓の導入や男女格差の是正など、共働き社会の基盤となるジェンダー平等施策が遅れている

子育てと教育にお金がかかり過ぎる

政府予算の配分が高齢者に偏っている

家庭より個人を優先する社会になった



新生児室で眠る赤ちゃんも、深刻な少子化を食い止めるために、福島県いわき市の村田産婦人科病院で5月5日、佐々木順一撮影

調査では、日本で少子化が深刻になっている原因として五つの選択肢を例示し、考えに近いものを複数選んでもらった。68%が「経済の停滞と非正規雇用の増加によって若い世代が将来の見通しを立てづらくなっている」、65%が「子育てと教育にお金がかかり過ぎる」と回答。「失われた30年」とも言われる日本経済の停滞と、それに伴う雇用や収入の不安定化が、若い世代の生活設計を萎縮させているとの認識が広がっている。

そのほか「家庭より個人を優先する社会になった」と「政府予算の配分が高齢者に偏っている」が26%で並び、「選択的夫婦別姓の導入や男女格差の是正など、共働き社会の基盤となるジェンダー平等施策が遅れている」が18%だった。世代間の意識差が目立ったのは「政府予算の配分」で、40代以下では47%がこの回答を選択したのに対し、50歳以上では15%だった。各種選挙の「若低一老高」の投票率に象徴される「シラバー民主主義」のひずみも見える。

岸田文雄首相は今年1月に「異次元の少子化対策に挑戦する」と表明したが、岸田政権の取り組みによって日本の少子化に歯止めがかかることを「期待する」との回答はわずか4%だった。「期待はするが、難しいと思う」が47%、「期待しない」が42%を占め、少子化問題をめぐる悲観論が社会を覆っている。

少子高齢化に伴う人手不足も深刻だ。人手不足対策についても考えに近いものを複数選んでもらったところ、過半数の58%が「AIなど最新技術を活用し省力化を進める」と回答。「もっと高齢者を増やそう」が47%、「外国人労働者を増やそう」が28%で続き、「経済が縮小し、各種サービスが低下してもやむをえない」は16%だった。

## 介護の心配誰にでも

日本の65歳以上の高齢者人口は2023年9月の推計値で全体の29・1%、2位のイタリアの24・5%を引越して世界一の高さとなっており、3人に1人が高齢者という超高齢社会に突入しようとしている。

調査では、介護を必要としている家族がいるかを尋ねたところ66%が「はい」と答えた。介護を必要としている家族を年代別にみると、40代の19%、50代の29%、60代の26%が「自分や配偶者の父母」と回答。70歳以上では16%が「自分」、11%が「配偶者」と答え、老介護の状況にある高齢者が少なくないことがうかがわれた。

近い将来、介護が必要になるかもしれないと心配している人がいるかも尋ねたところ「はい」の回答は19%まで縮小する。心配している人については、年代別では18%、29歳の44%、30代の75%、40代の85%、50代の64%が「自分や配偶者の父母」と答える一方、60代の56%と70代以上の73%が「自分」、60代の42%と70歳以上の51%が「配偶者」と回答した。

日本の医療・介護・年金制度について、将来にわたる持続可能性が確保されていると思うかも尋ねた。信頼できるを5点、「信頼できない」を1点とする5段階で点数をつけてもらった結果、平均点は医療3・3点、介護2・7点、年金2・1点だった。

信頼できる	医療	介護	年金
平均	3.3点	2.7点	2.1点
5点	12%	2%	2%
4点	38%	16%	6%
3点	32%	43%	23%
2点	10%	25%	32%
1点	7%	13%	36%

「信頼できる」を5点、「信頼できない」を1点とする5段階で点数をつけてもらった結果、平均点は医療3・3点、介護2・7点、年金2・1点だった。

年金の平均点は50代以下を放置すれば、シルバー民主主義への不満がさらに広がりがねない。

## 超高齢社会 温暖化 物価高 不安広がる

物価高が生活に与える影響について「深刻だ」と思う人が80%に上り、「深刻だと思わない」は11%だった。

政府の物価対策を「評価する」はわずか7%で、「評価しない」が69%を占めた。

日本の物価高については、世界的な資源・食料価格の高騰に加え、円安が生産コストを押し上げたことが原因とされる。10年にわたる大規模な金融緩和によって円安に誘導してきたアベノミクスの評価を尋ねたところ「評価する」は6%にとどまり、「評価しない」が39%、「評価しない」が32%、「わからない」が20%となっていた。

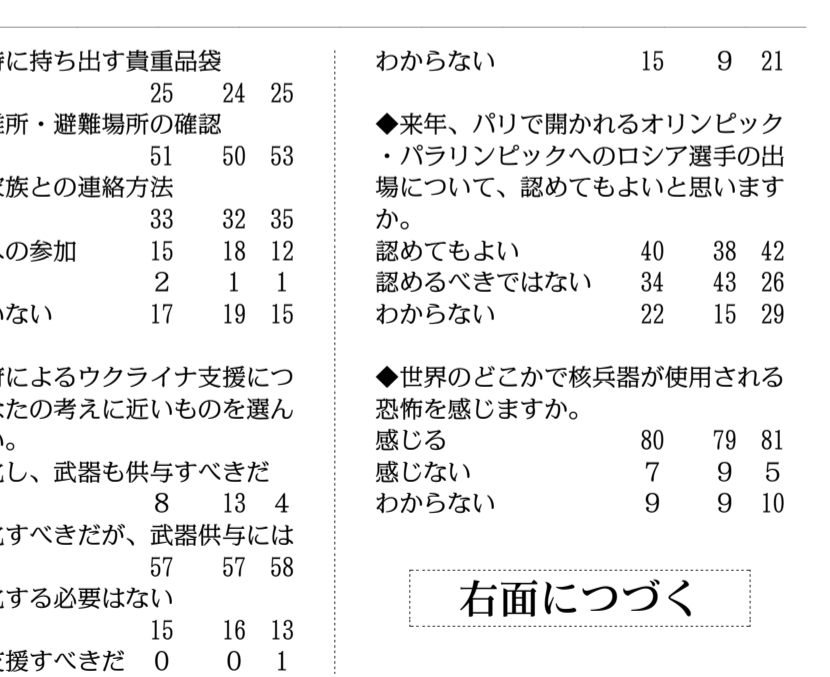
## 災害 避難先を確認 51%

酷暑に見舞われた今年の夏も各地で豪雨災害が相次いだ。調査では、大きな地震や集中豪雨などの災害に襲われる不安を「感じる」との回答が78%を占め、「感じない」が12%だった。自身の生活の中で災害への備えをしているかも尋ね、五つの選択肢から複数を選んでもらった。「近所の避難所・避難場所の確認」と答えた人が51%で最も多く、「非常食などの防災グッズ」44%、「緊急時の家族との連絡方法」33%、「緊急避難時に持ち出す貴重品袋」25%、「防災訓練への参加」15%と続いた。17%が「何もしていない」と答えた。

地球温暖化が生活に与える影響については「深刻だ」と思う人が76%に上り、「深刻とは思わない」は10%だった。女性の81%が「深刻だ」と答えたのに対し男性では71%と若干の男女差がみられた。自身の生活の中で地球温暖化対策に「取り組んでいる」との回答

は「大いに」(3%)と「ある程度」(48%)を合わせて51%。「取り組んでいない」は「あまり」(38%)と「全く」(8%)を合わせて46%と拮抗している。女性では「取り組んでいる」が53%で「取り組んでいない」の44%を上回ったが、男性ではいずれも48%で並んだ。

選挙で投票する際に地球温暖化に関する政党や候補者の主張を重視するかについては、「重視する」32%、「重視しない」33%、「わからない」31%と分かれた。

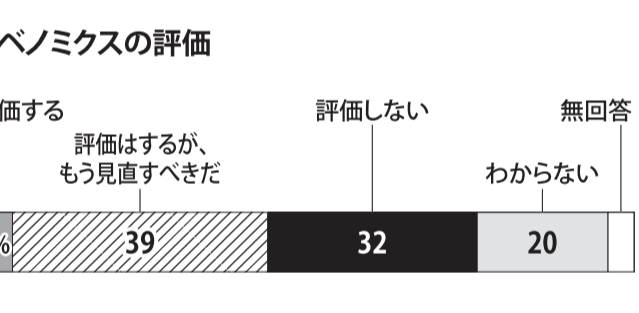


### 右面につづく

## 年金制度の信頼低く

年金の平均点は50代以下を放置すれば、シルバー民主主義への不満がさらに広がりがねない。

## アベノミクス 評価割れる



アベノミクスに対する評価は割れている。評価はするが、もう見直すべきだ、13%が「評価しない」と答えている。岸田政権が今後、アベノミクスからの軌道修正を図れるかどうか経済政策の評価を左右しよう。

### 主な質問と回答

◆岸田内閣を支持しますか、支持しませんか、それとも関心がありませんか。	支持する	24(31)	25	
支持しない	51(45)	56	46	
関心がない	24(23)	18	29	
◆どの政党を支持していますか。	自民党	29(30)	31	28
立憲民主党	8(7)	10	6	
日本維新の会	9(7)	11	7	
公明党	3(4)	2	5	
共産党	3(3)	2	3	
国民民主党	2(2)	2	2	
れいわ新選組	2(2)	2	2	
社民党	0(1)	0	0	
政治家女子48党	0(0)	0	0	
参政党	1(1)	1	1	
その他の政治団体	1(0)	1	1	
支持政党はない	42(42)	36	45	
◆今の生活に満足していますか。	大いに満足している	5(3)	5	4
ある程度満足している	51(54)	53	50	
あまり満足していない	34(33)	31	35	
全く満足していない	10(9)	10	10	
◆今の日本社会を以下に挙げる五つの層に分けたとすると、あなた自身はどれに入るとお考えですか。	上	1(1)	2	1
中の上	16(16)	18	15	
中	38(36)	40	36	
中下	24(26)	24	25	
下	10(7)	8	10	

わからない	10(13)	7	12	
◆自分の親世代よりも、豊かな生活を送っていると思いますか。	思う	37(39)	40	34
思わない	36(36)	35	36	
どちらとも言えない	24(24)	21	26	
◆10年後の日本は今より住みやすい国になっていると思いますか。	思う	5(9)	6	5
思わない	69(63)	71	68	
わからない	22(28)	19	24	
◆今、最も不安に思うことは何ですか。	老後の生活	38(35)	36	40
自分や家族の健康	18(20)	20	15	
就職や雇用	4(4)	4	4	
出産や子育て	5(4)	4	5	
地震などの災害	9(10)	8	10	
テロや戦争	11(13)	10	11	
景気	8(11)	11	6	
その他	3(2)	3	3	
◆新型コロナウイルスの感染拡大前と比べて、あなたの生活は変わりましたか。	変わった	55	53	57
変わっていない	42	43	40	
◆「変わった」と答えた方に「あなたの生活について当てはまるものを選んでください。(複数回答)」	出かけることが少なくなった	57	56	58
人と会う機会が減った	59	55	62	
生活が苦しくなった	24	21	26	
家族と過ごす時間が増えた	17	17	18	

趣味に費やす時間が増えた	10	12	9	
その他	8	8	8	
◆日本政府によるこの間の新型コロナ対応を評価しますか。	高く評価する	5	7	3
ある程度評価する	54	53	55	
あまり評価しない	28	26	31	
全く評価しない	9	10	8	
◆今後も感染症の世界的な流行(パンデミック)に襲われる不安を感じますか。	感じる	66	67	65
感じない	13	16	10	
わからない	17	13	21	
◆物価高があなたの生活に与える影響は深刻だと思いますか。	深刻だと思う	80	75	85
深刻とは思わない	11	15	6	
わからない	5	5	5	
◆政府の物価対策を評価しますか。	評価する	7	8	6
評価しない	69	71	66	
わからない	21	16	25	
◆日本の物価高については、世界的な資源・食料価格の高騰に加えて、円安が生産コストを押し上げていることが原因とされています。10年にわたる大規模な金融緩和によって円安に誘導してきた「アベノミクス」について、あなたの評価に近いものを選んでください。	評価する	6	8	3

評価はするが、もう見直すべきだ	39	43	36	
評価しない	32	35	30	
わからない	20	11	27	
◆地球温暖化があなたの生活に与える影響は深刻だと思いますか。	深刻だと思う	76	71	81
深刻とは思わない	10	14	6	
わからない	10	10	10	
◆ご自身の生活の中で地球温暖化対策に取り組んでいますか。	大いに取り組んでいる	3	3	3
ある程度取り組んでいる	48	46	50	
あまり取り組んでいない	38	38	38	
全く取り組んでいない	8	10	6	
◆選挙で投票する際に、地球温暖化に関する政党や候補者の主張を重視しますか。	重視する	32	36	29
重視しない	33	38	28	
わからない	31	22	40	
◆大きな地震や集中豪雨などの災害に襲われる不安を感じますか。	感じる	78	76	80
感じない	12	16	9	
わからない	6	5	7	
◆ご自身の生活の中で災害への備えをしていますか。準備しているものを選んでください。(複数回答)	非常食などの防災グッズ	44	38	49

緊急避難時に持ち出す貴重品袋	25	24	25	
近所の避難所・避難場所の確認	51	50	53	
緊急時の家族との連絡方法	33	32	35	
防災訓練への参加	15	18	12	
その他	2	1	1	
何もしていない	17	19	15	
◆日本政府によるウクライナ支援について、あなたの考えに近いものを選んでください。	支援を強化し、武器も供与すべきだ	8	13	4
支援は強化すべきだが、武器供与には反対	57	57	58	
支援を強化する必要はない	15	16	13	
ロシアを支援すべきだ	0	0	1	

わからない	15	9	21	
◆来年、パリで開かれるオリンピック・パラリンピックへのロシア選手の出場について、認めてもよいと思いますか。	認めてもよい	40	38	42
認めるべきではない	34	43	26	
わからない	22	15	29	
◆世界のどこかで核兵器が使用される恐怖を感じますか。	感じる	80	79	81
感じない	7	9	5	
わからない	9	9	10	

## 回答謝礼を活用 寄付付き世論調査

この調査は「寄付付き世論調査」として実施した。謝礼(500円の図書カード)を受け取るか、社会事業団体に寄付するか、回答者が選択する仕組みで「寄付先はあしなが育英会」「日本赤十字社」「毎日新聞東京社会事業団」の3団体から選んでもらった。